

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 26 年 3 月 24 日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3490200700		
法人名	(有) 藤山商事		
事業所名	グループホーム縮景園		
所在地	広島市中区上幟町5番17号 (電話) 082-511-1121		
自己評価作成日	平成26年 3月24日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kajigokensaku.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kani=true&JigyosyoCd=3490200700-00&PrefCd=34&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人 医療福祉近代化プロジェクト
所在地	広島市安佐北区口田南4-46-9
訪問調査日	平成26年4月10日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

<p>平成25年4月にオープンしたばかりの新しいグループホームです。広島の一等地で県立美術館は縮景園から徒歩1分。また、三越・福屋も近くにあり、お買い物レクにはとても便利な場所にあります。”ゆっくり、ゆったり”をモットーに一人一人のペースに合わせた支援が出来る様に努めています。ワカサ・リハビリ病院の院長による往診が週に3回と、緊急時には日夜を問わずの往診も望めます。ワカサ・リハビリ病院と連携を取りDr.の指示に従い対応させていただきます。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

<p>グループホーム縮景園は市内中心部、名園縮景園に近い閑静な住宅地に立地し、園内の散策を日常の散歩コースとし、デパートにも近く、交通、買い物共に便利なホームです。母体病院がかかり付け医として健康管理を担い、ホームの理念「明日の事を思い煩うことよりも、今日一日を、輝いて」を掲げ、認知症支援に経験豊かな管理者を中心に職員の一致した温かい協調体制で、1ユニット利用者6名（現入居者）への穏やかな支援が続けられ開設満一年を迎えています。施設は2ユニットの設備を持ち、1年間で培われた当地での運営経験を基に、本年は残るもう1ユニットの開設に向けて、近隣に地域サロンを併設される等、地域に開かれ、地域とより一層の繋がりを持たれるよう、入居者が地域に馴染まれる支援を目標に努められています。</p>
--

グループホーム縮景園

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	理念をもとに、一日一日を大切に楽しく過ごして頂けるように、職員一同が理念を毎朝、唱和し、実践につなげるように努力している。	事務室兼ミーティングルームに法人理念「明日のことを思いわずらう事よりも、今日一日を輝いて」を掲示し申し送り時に唱和し、実践に繋げている。	理念に沿った具体的な努力目標を、職員の合議で作られ、日々の支援に活かされることが期待されます。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	町内会に入会する意向であるが、地域とのつながりはまだ薄い。これから、地域とつながりを持っていきたい。	開設一年である事、近隣はオフィスが多く、地域との交流はこれからの課題となっている。近日に母体法人企画のサロンをオープンされホームと合同して地域交流の拠点とされる計画を持たれている。街路の清掃は出来るだけ広範囲で毎日行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	まだ地域貢献できていない。これから、地域貢献出来る様に努めていきたい。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	地域包括支援センターの方、民生委員の方に出席して頂き、施設の取組み状況等を報告している。そこで出た意見等を、サービスの向上につなげていけるように努力している。	運営推進会議は民生委員、地域包括、ホーム管理者、ケアマネ、ユニットリーダーが出席して行われ、利用者の皆さんの現状・行事実施内容・道路清掃の実施・インフルエンザ等健康管理の情報発信等を議題とし、ご意見を頂き支援の向上に反映している。	町内会長、社会福祉協議会、老人会、消防署、派出所等社会的資源方面にも推進会議への参加を要請され、より広い地域交流の意見を求められることが期待されます。
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。	市町村とは常に相談をし、日頃から連絡を密に取り、協力を得ている。市の集団指導研修にも参加した。	法的に問題がある場合は常に介護保険課に直接相談に行って解決している。市の指導研修には必ず参加している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束ゼロの手引きにして、職員全員で勉強し、共通の意識を持ってケアに取り組んでいる。	法人全体で身体拘束ゼロを目指して研修をし、職員間でマニュアルを共有して支援している。入居初期の利用者に対し、転倒防止のため、家族と了承書類を交換し、ベッド柵拘束を行ったが数日で良くなり中止した。街中で交通量が多い為玄関は施錠している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	常に虐待にならないか、考えながら日々のケアを行っている。精神的虐待にあたる言葉遣いは、いつも職員間で注意し合える関係にある。		

グループホーム縮景園

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	学ぶ機会を持ち、必要な時に支援が出来る様にしたい。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	入居時に「重要事項説明書」と「契約書」を用いて、十分に説明を行い理解・納得された上で同意の署名・押印を頂いている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	日頃から、ご家族とのコミュニケーションを大切にし、意見や要望を話しやすい環境であるように心掛けている。また、要望にも出来るだけ添っていけるよう努力していきたい。	訪問回数が多いご家族は割合自由に意見、要望を発言され、要望に沿えるようにしているが、来訪をお誘いしても仕事等を理由に来所が難しいご家族があり、寂しそうな利用者には職員が寄り添って要望をくみ取るよう気配りをしている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	代表者は、日頃から職員の意見や提案を聞く機会を設けている。また、月に1回のユニット会議でも意見を聞いている。	職員の発案や要望に管理者はよく理解を示し、職員が日常的に活発な意見を述べ易い配慮をしている。管理者は職員の処遇改善についても、再三法人と折衝し、改善に繋がれ職員より信頼を得ている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	勤務1年以上の職員に対しては、リフレッシュ休暇が2日とれ、十分に休養がとれるように職場環境を整えている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	新人職員には、個人の力量に応じた時間をかけて指導している。積極的に外部研修を受けスキルアップしていきたい。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	同業者との交流がほとんどないので外部研修に参加し交流の機会をもち、サービスの質を向上していきたい。		

グループホーム縮景園

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	本人の不安な事や要望をお聞きしながら、これからの生活について相談し決めていき、安心を確保できる様に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	サービスの開始にあたってご家族に不安や要望をお聞きしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	ご本人とご家族様から話を聞き、必要とされている支援について職員間でもよく話し合い、統一したケアが出来る様に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	日々の生活の中で、職員と一緒に洗濯物干し、洗濯物たたみや、広告でのゴミ箱折りをやっている。共に過ごし、支えあえるような関係作りに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	共に本人を支える様に、家族にニーズを聞きながら、家族と一緒に支援していける様な関係作りに努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	これまでの馴染みの方が来られたり、職員が購入にはなるが、百貨店での買い物ができるように支援している。	歌曲の先生であった利用者を生徒さんが、指導を求めて度々来訪されている。認知症であっても、その時はしっかりと言葉で指導される場面がありその継続を応援している。又お弟子さんが散髪をされるので、そのお手伝いをしている。	ホームの立地を生かされた、百貨店への外出支援は、利用者より大変喜ばれている。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	孤立しない様に、日々、声掛けを行っている。個人の性格や身体の状態によって食事の席を決めてはいるが、入居者同士が関わり合い、支え合っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	サービスが終了しても、いつでも相談を受ける体制はできている。		

グループホーム縮景園

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いやりや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日頃の会話から思いを聞き、希望に添った支援ができるように努めている。思いや希望を伝える事が出来なくなった方は、スタッフが本人本位になって検討している。	一ユニット、少人数の利点もあり、一人一人に寄り添った支援が出来ているので、職員が聞き得た情報を共有して本人本位の意向に沿える支援に繋げている。職員は疑似家族としてチームワークを保ち温かく、思いや意向に沿えるよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	生活歴等をご家族から情報を得たり、日々の会話から馴染みの暮らし方などの把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	毎日の様子、話された事、何気ない行動を記録に残している。情報が共有できる様、必要に応じて口頭やノートにて申し送りを行っている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	現場スタッフに担当を持ってもらい細やかなアセスメントを記入してもらっている。本人、家族はもちろん、スタッフからの意見やアイデアも取り入れている。	担当者が詳細に作成したアセスメントを基に職員間で再検討して本人本位の意見やアイデアを加え、本人、家族に伺いながらケアマネが計画作成を行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個別の記録に日々の様子やケアの実践を記入している。口頭や連絡ノート記入により情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	御本人、御家族様のニーズに合わせた柔軟な支援となるように努力している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	地域資源を把握し、入居者様が暮らしを楽しむことができる様に支援していきたい。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	週に3回、ワカサ・リハビリ病院のDr.往診がある。本人、ご家族の希望される医療機関への受診はご家族対応になっているが情報提供はしっかり行っている	入居時に説明し、殆どの入居者はかかりつけ医を法人母体病院にされている。週3回の往診を受け健康管理が保たれ、緊急の場合は24時間の対応がされる。歯科についても定期的の往診がある。	

グループホーム縮景園

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	何かいつもと様子が違った事があればすぐに看護師に相談・報告している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ワカサ・リハビリ病院に入院された方には、定期的に面会へ行き、病院関係者と情報を共有し、出来るだけ早期に退院できるようにしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	入居時、施設長から家族にお話しさせて頂いている。重度化、終末期になった場合には、必要時にお話し、お尋ねする様にしている。これまでには事例はありません。	重度化、終末期に向けてのホームの方針は、一応入居時に家族を交えて説明している。重度化された場合はかかりつけ医(母体法人)、家族と何度も相談を重ね出来るだけ要望に沿った支援が出来るよう努めている。ホームで看取りの事例は未だないが、入居の方が突然死され、かかりつけ医の臨機応変な対応で、遺族より謝意が寄せられた。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	不規則ではあるが施設内への勉強会や口頭による説明を行っている。急変や事故発生時の的確な対応を身につけていきたい。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	火災避難訓練は10月に行っている。地震や、夜間の想定訓練も行っていきたい。	消防署の参加を得て、入居者、職員合同の避難訓練が10月に実施され、写真の記録が、残されている。	今後の取り組みとして、運営推進会議に消防署や派出所の参加を得られて、地域との災害対策を検討されることが期待されます。次期は夜間想定避難訓練を計画されている。
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	言葉遣いはミーティングなどで伝え合いお互いに注意し合っている。個人情報の取扱については同意書を交わしている。	訪問当日、利用者に寄り添いながら、職員は笑顔で優しく話しかけている情景が、度々見受けられた。トイレ誘導時の声かけについては職員間で十分話し合っている。個人情報関係のファイルの保管は確実にされている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	日常生活の中で思いや希望が聞けるように声掛けをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	職員側の都合になる事もあるが一人一人のペースに合わせた生活が送れるように希望を聞きながら支援している。		

グループホーム縮景園

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	今まで着られていた服で、その人らしい身だしなみを整えている。女性はお化粧も楽しませている方もいらっしゃる。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	毎日の食事の準備や片付けは職員が行っている。月に1回、入居者様の食べたい物をお聞きし、食べ物レクを行い、職員も一緒に楽しんでいる。	家庭的な対応を重視して、席に着かれて、お一人お一人に提供するようにしている。食事の準備や片付けにお誘いはしているが、現状では手伝いをされる方が居られない。「ドリア」「チジミ」等お好みの副菜を職員と一緒に作る、食べ物レクの回数を多くして職員と共に計画、実践して楽しませている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	外部委託による高齢者向けの栄養バランスの整った食事を提供している。個人の嗜好に合った調味料や飲み物、ジャムなど習慣に応じた支援を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	個人の生活習慣に合わせて口腔ケアの支援を行っている。出来るだけ、毎食後の口腔ケアが行える様に声掛けを行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	出来る限りトイレで排泄できるよう、排泄パターンの把握に努めている。夜間紙オムツを使用されている方も、日中は紙パンツに履き替え、トイレ誘導を行っている。	基本は「トイレで気持ち良い排泄をしてもらう」を合言葉に、1日の生活記録票の中に、排泄の記録も記入され、職員間で共有し、排泄パターンを職員間で共有しトイレ誘導に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	水分の確保ができるように、お好みの飲み物を提供している。排泄の回数、量、状態に応じて緩下剤によるコントロールを行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	本人の希望通りの時間に対応するのは難しいが、できる範囲内の時間帯や、曜日の変更には応じている。週に2回の入浴ができるようにしている。	入浴は週2回(夏季は3回)できるだけご本人の希望を聞きながら対応している。立位が困難の方も浴槽にゆっくり入ってもらう様に2人体制で一緒に入浴して介助している。その他難度の水虫の方を足浴にドライヤーと薬効で完治出来、喜ばれた。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	日中、一人一人の生活習慣に合わせて居室で休息できるようにしている。夜、なかなか眠りにつけない方に対しては、ゆっくりとお話をお聴きしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	いつでも、すぐに確認できるように一覧表を作っている。新しく処方された薬、変更になった薬は口頭・ノート記入にて申し送りしている。		

グループホーム縮景園

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	洗濯物干しや洗濯物たたみなど役割を持って過ごしてもらえている。個別に買い物レクも行った。一人一人の生活歴や楽しみごと、気分転換の支援も行っていきたい。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	一人ひとりの希望に沿っての支援はできていないが、買い物に出掛けたり、縮景園の園庭を散歩したりの外出を行った。これから外出の機会は増やしていきたい。	冬季がかなり長く天候不順な日が多かったので、最近まで一人一人の希望通りの外出支援は出来ていないが、今後出来るだけ、希望に沿って縮景園の散歩やデパートへの買い物、近くのレストランへ歩いて食事にく等々の外出支援を計画している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	ご自分で管理できる方は少ない額を自己管理されている。それ以外は事務所で管理している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	希望があれば電話を掛けたり、手紙のやりとりができるように支援していきたい。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	共用の空間はスタッフが毎日掃除を行い清潔にしている。リビングに誰もいらっしやらない時にはオルゴールのCDを流し、優しい雰囲気になるようにしている。	市内中心部で、入居者の日常に「ハイセンスな生活」の雰囲気づくりが演出され、リビングの食事やティータイム用のテーブル、椅子は高級感のある物が使用されている。キッチン、リビングの境目が無く利用者は自由に入出し、作業をしている職員と利用者との会話がゆったりと交わされている。共有リビングと利用者の個室は広い廊下で繋がり、利用者が行き来されることが、日常生活歩行リハビリに役立っている。	上品な雰囲気づくりに加えて、季節感のあるお花や絵画、写真等飾られると快さが加わることが期待されます。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	気の合う方同士が話しやすいようにリビングには丸テーブルが置いてある。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居室については電動ベッド・タンス・エアコン・布団は完備しているが、使い慣れた物、好みの物や大切に持たれた物を持って来られている方もいる。ご本人の生活しやすい居室になるよう目指している。	ご本人が自宅で使用されていた、椅子や小型テーブル、小物入れ等が持ち込まれ日常的に利用されている。孫や家族の写真や壁に掲示されたり、若い日に活躍されていた写真パネルを眺められて、懐かしみ、気持ちを高揚されている様子もう覗いた。職員が写真などを話題にして会話が広がっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	建物全館バリアフリーになっており、居室のドアも引き戸になっている。ご自分で開け閉めができる。全居室にも洗面台があり、水とお湯が使い、車椅子の方でも使用しやすいつくりになっている。		

グループホーム縮景園

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

グループホーム縮景園

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の3分の2くらいが ③家族等の3分の1くらいが ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホーム縮景園
製作日 平成 26年 4月 16日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	13	施設内研修をしっかりと充実させる	研修により個々のスキルアップに役立てる	外部研修にさんかして内部研修をし、より充実させる	12か月
2	4	運営推進会議を充実させる	地域の方、家族の方にも参加して頂けるように声掛けをする	消防署のご指導と協力を賜りながら会議内容を充実させ又地域との交流を深める	12か月
3					
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。